

危機管理型水位計の設置計画について

○危機管理型水位計の概要

- 洪水時の水位観測に特化した低コスト型の水位計（国交省開発）
→住民の避難を支援
- 「中小河川緊急対策プロジェクト」（H29.12）により、全国5,800箇所で設置目標
- 宮城県内では64箇所で設置を予定（H31年度出水期まで）
- これまで県管理河川においては、テレメータ水位局（常時監視）を124基設置し、治水・水防における監視体制を構築
- 低コストで設置が可能な危機管理型水位計を設置することにより、水防における河川の監視体制を拡充

○気仙沼・南三陸圏域における危機管理型水位計設置検討箇所

設置検討箇所			
松川	八瀬川	津谷川	馬籠川

※危機管理型水位計設置箇所選定にあたっての留意点

- 重要水防箇所で特に監視が必要な箇所
 - 近年の洪水で溢水などが確認される箇所
 - 氾濫範囲に要配慮者利用施設など避難に時間を要する施設が所在する箇所
- 水防活動や避難行動の指標となる箇所に設置することにより、防災体制の充実を図る**

○県管理河川の危機管理型水位計設置検討状況

危機管理型水位計の設置検討状況

平成30年 1月 減災対策協議会：21箇所を選定（要配慮者・重要水防箇所等）

平成30年 5月 各市町意見照会：具体的な設置要望箇所，要望理由，活用方法から7箇所について調査。



平成30年7月から 各市町の意見を参考にし，具体的な設置箇所(4箇所)を調整。
平成30年度末 設置完了（平成31年度出水期までに運用予定）